

移住者と言われているうちは、いつまでたってもよそ者。 地域力の一部になりたいです

菊地 恵美子 (きくち えみこ) さん

「イカラカラの会」事務局長、アイヌ刺繍愛好家

1965年東京生まれ。千葉県、茨城県、そして新ひだか町民となり3年目。

午後カフェ 11月定例会で移住者の先輩と歓談する恵美子さん

北海道に移住（U・I・Jターン）して、地域を巻き込む取り組みをする輝く人を紹介するインタビュー。お話を伺うのは、北海道各地を探訪し想いを形にする人との出会いをつなぐ、地域プロデューサーのかとうけいこさん。14回目となる今回は、あっという間に地域に溶け込み、地域文化を伝承する一人になりたいと以前から憧れていたアイヌ刺繍^{ししゅう}を学び広めることに奔走する、新ひだか町の菊地恵美子さんです。

移住のきっかけを教えてください

自衛官だった夫が退職後に、以前から「家族みんなを連れて行きたい場所があるんだ」と言っていた静内（新ひだか町）に3年前にやってきました。演習で年に一度、約1カ月静内の駐屯地に来ていたのです。30回ほど滞在していて、「海が近くて山もある、美味しい野菜や海産物、肉類もある。なにより気候も良くて穏やかだ」とアピールしていました。岩手県生まれの夫なので、穏やかな静内の気候や優しい人たちがしっくりきたのでしょうか。

ご主人以外は北海道に来たことがなかったそうですね

何度か北海道旅行の話はあったのですが、タイミングが合わず…でした。夫が退官後の就職先として新冠町での仕事を選んだことから、移住することになりました。時々聞かれるのですが、私自身何の迷いも不安もありませんでした。生まれた場所は祖父母が経営していた天ぷら屋があった東京の歌舞伎町でしたから。都会の真ん中で生まれ育ったので、広い土地にあこがれを持っていたかもしれません。夫は転勤のある仕事でしたが単身赴任を選ばず、家族で引っ越ししていたので、我が家にとっては当たり前の選択だったのかもしれませんね。職場の下見と家探しで滞在し、私にとって3回目の北海道が移住だったというところです。

実際に住んでみてどうでしたか？

初夏から秋にかけては、ピーマンやトマトなど家庭菜園で作った新鮮な野菜を届けてくださる方が多くて、こちらに来た当初は本当に驚きました。さらにお漬けものや料理もおすそ分けでいただくことがあり、なん

て優しい人が多い町なんだろうというのが私の率直な
思いです。役場の臨時職員として1年間仕事をさせて
もらい、ゴスペルのサークルにも入りました。そうこ
うしているうちに、あっという間にお知り合いが増え
ました。ありがたいです。今年の秋からは、サケの^ふ孵
化場でのパート（サケの頭を並べる、稚魚にエサを与
える）という北海道ならではの仕事にも関わられて、楽
しくて仕方がありません。

アイヌ刺繍に関わるきっかけは？

博物館で行われていたアイヌ刺繍講座を友人が教え
てくれて、すぐに申し込みました。こちらに来てまも
なくだったと記憶しています。手芸はもともと好きだっ
たのですが、アイヌ模様のいわれを学び、針を進める
ことが楽しいです。基本的な形の組み合わせなので無
限に柄ができます。どんどん^ひ惹き込まれ、すっかり魅
了されました。

町民、高校生、旅行者にも教えていますよね

気がつくと、其^{その}浦千秋先生の助手としてアイヌ刺繍
を高校生や地元の方に教えるような立場になっていま
した。静内高校では、去年の夏から選択科目の「服飾」
の授業でアイヌ文化について、刺繍をきっかけとして
教える機会をいただきました。さらに、去年の冬から
は地元のホテル、ローレルさんの企画で宿泊者へ提供
する滞在型体験プログラムの一つとして、アイヌ文様
刺繍講座を担当させていただきました。お金をいただ
く、貴重な時間を共有するということが緊張しました。
まだまだ修行中ですが、高校生、地域の方、旅人へ自
分が楽しいと思うことをお伝えすることは、なんて充
実した素敵な時間なの！と実感しています。

アイヌ文様は独特の形を表現することができるのが
とても魅力的です。これからもアイヌ刺繍を楽しいと
思ってくれる人が増えるお手伝いができるように活動
していきたい。そしてじっくり作品に取り組む時間も
作りたいです。

(2021年11月取材)



BASE.S CAFÉ SHIN HIDAKAを会場に開催された定例会の様子

午後カフェ

新ひだか町の移住者有志によるグループ「新
ひだか町暮らし♡サポーターズ(木村孝男代表)」
主催の定期ミーティングが「午後カフェ」です。
毎月第2金曜日の14時から町内のカフェで実施
しています。場所を提供して下さるカフェオー
ナーも移住者。移住コーディネーターの進行で、
近況報告や自己紹介などからスタートします。
先輩移住者から体験談やアドバイスなどを直接
聞くことができる情報交換の場です。この日は
町民や、町内でアパート経営をされている札幌
在住の方も参加されており、移住者だけの会で
はないこともわかりました。町内には、10戸の
「ちょっと暮らし体験住宅」があり、生活体験
や積極的にボランティア活動をしながら地域の
方々との交流を深めつつ、じっくりと仕事や住
宅を探すことができる仕組みがあるそうです。
こうした和気あいあいとしたよいコミュニティ
があることは大切だとつくづく感じました。

インタビュー後記

恵美子さんとは、昨年の夏に、新ひだか町の歴史ガイド研修育
成プログラムでお会いしたのが最初でした。オオワシを見る会でも
ご一緒し、好奇心旺盛で明るい方だという印象を持ちました。ちょ
うどその頃、自動車学校に通い出したとお聞きました。今では平
取や浦河までアイヌ文化を学びに行くために運転しているとか。そ
して、気が付くとわずか300mのコンビニへも車で移動する道産子
になっていたと明るく笑います。

かとう けいこ (株)まちづくり観光デザインセンター代表